「活動」を育む医学

障害を克服し、機能を回復する

公益社団法人
日本リハビリテーション医学会

2017

リハビリテーション医学とは

障害を克服・機能を回復・活動を育む医学

理事長ご挨拶

公益社団法人日本リハビリテーション医学会 理事長
京都府立医科大学 教授
久保 俊一

今、多様性が組織を活性化させるダイバーシティ・マネジメント（Diversity Management）というプロセスが注目されています。リハビリテーション医学のプロセスにはDiversity Managementが含まれています。リハビリテーション科はさまざまな疾患や障害を対象とし、多くの診療科や専門職と関連します。この特徴をエネルギーに変えるべきです。多様性は多面的な社会貢献を可能にします。社会貢献の例として、障がい者スポーツの振興や障害のある人もない人も充実した人生を送れるInclusive Society（寛容社会）の実現があります。

社会の高齢化が急速に進んだ現在では、リハビリテーション医学・医療の対象者は、小児から高齢者まですべての年齢層に広がっています。

また、急速な少子高齢化は、疾病構造を複雑にしました。これに伴ってリハビリテーション医学・医療が対象とする疾患や障害は、運動器障害、脳血管障害、循環器や呼吸器などの内部障害、摂食嚥下障害、小児疾患、がんなど幅広い領域に及んでいます。さらに、不健康寿命が延びるにしたがい、病院や施設だけでなく生活期でも良質なリハビリテーション医学・医療が求められています。このように、リハビリテーション医学・医療に対する社会の期待は極めて大きいものがあります。

リハビリテーション医学・医療が注目される現在、本医学会にはたくさんの課題があります。ひとつひとつに真摯に取り組みます。会員の皆様および関係する多くの方々の今まで以上のご支援とご鞭撻をいただけますよう、心からお願い申し上げます。

学会の歴史

1963年	（昭和38年）	9月29日創立
1964年	（昭和39年）	第1回日本リハビリテーション医学会開催、学会機関誌『リハビリテーション医学』創刊
1968年	（昭和43年）	日本医学会に加入
1980年	（昭和55年）	専門医制度が成立し、リハビリテーション医学会専門医がスタート
1987年	（昭和62年）	日本リハビリテーション医学会認定臨床医制度を設立
1989年	（平成元年）	社団法人となり、「社団法人日本リハビリテーション医学会」
1996年	（平成8年）	「リハビリテーション科」の標榜が認可
2001年	（平成13年）	日本専門医機構の18基本領域のひとつに選定される
2009年	（平成21年）	リハビリテーション科女性医師ネットワーク（RJN）を設置
2011年	（平成23年）	「震災対応ワーキンググループ」、「東日本大震災リハビリテーション支援関連10団体総合戦略会議」による被災者の支援
2012年	（平成24年）	社団法人から「公益社団法人日本リハビリテーション医学会」に
2013年	（平成25年）	設立50周年、様々な記念式典
2016年	（平成28年）	会員総数が一万人を超える（2017.4.1日現在 10,484名：医師10,263名、医師以外221名）

リハビリテーション医学・医療の主な対象

脳卒中 外傷性脳損傷	運動器の疾患・外傷	脊髄損傷	神経筋疾患	切断（外傷・血行障害）	小児疾患
関節リウマチ	循環器疾患	呼吸器疾患	摂食 嚥下障害	外科手術前後 がん	腎臓・肥満・糖尿病・フレイル・サルコペニア

リハビリテーション医療の流れ

リハビリテーション医療は疾患発症・外傷受傷・外科手術直後の急性期から回復期、生活期まで、一貫した流れで行います。

急性期 ▶ 回復期 ▶ 生活期（維持期）

学術的に連携している学会・団体

日本整形外科学会、日本神経学会、日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会、日本臨床整形外科学会、日本運動器科学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、日本心臓リハビリテーション学会、日本義肢装具学会、日本 RA のリハビリ研究会、日本障がい者スポーツ協会、回復期リハビリテーション病棟協会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会、日本義肢装具士協会ほか（JARM 2016 学術集会での実績）

学会の取り組み

リハビリテーション医学・医療の意義

・多面的アプローチ（臓器レベルでの機能改善、ADL の向上、住環境整備、社会適応援助など）により、健康寿命の延伸に重要な役割を果たす
・急性期から生活期まで幅広いリハビリテーション医学・医療の質向上と標準化（標準的医療としての確立）による社会への貢献

疾患・領域別リハビリテーション医学・医療の連携、サブスペシャルティ学術団体の設立、リハビリテーション関連専門職種に対する貢献

・リハビリテーション医学・医療におけるハブ機能としての役割強化（各医学領域の学会・団体との連携、急性期・回復期・生活期それぞれのサブスペシャルティ学術団体の設立、関連専門職団体との連携）
・関連専門職の質向上に対する教育的貢献（日本リハビリテーション医学関連専門職認定機構の設立）

特定機能病院、地域包括ケアシステム、地域医療構想に果たす役割

・急性期のリハビリテーション医学・医療のあり方（各領域における急性期のリハビリテーション医学・医療の教育と意義づけ）
・回復期のリハビリテーション医学・医療のあり方（回復期のリハビリテーション医学・医療における教育とエビデンスの確立）
・生活期のリハビリテーション医学・医療のあり方（生活期のリハビリテーション医学・医療における教育と効果的方策の検討）
・介護予防のあり方（介護予防のための医学的リハビリテーションの位置づけ）
・上記に関するサブスペシャルティの学術団体の設立協力

リハビリテーション医学の卒前・卒後教育

・医育機関における卒前リハビリテーション医学教育の充実（全国医学部リハビリテーション科連絡会の強化、全国医学部におけるリハビリテーション医学講座の設置推進）
・新専門医制度における教育体制の整備
・急性期、回復期、生活期におけるシームレスな教育内容の標準化

リハビリテーション医学研究の推進

・既存治療法に対する客観的評価、先端医療（例：ロボット）・新薬などの開発、再生医療へのリハビリテーション医療の応用

Inclusive Society（寛容社会）の実現へ

社会貢献

災害支援医療の推進

JRAT(大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会) における貢献

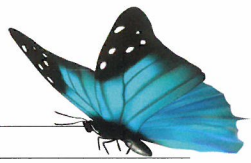
障がい者スポーツの支援

障がい者スポーツの振興やパラリンピックへの貢献

役員一覧 （平成 29 年度）

理事長	久保俊一	京都府立医科大学 教授
副理事長	安保雅博	東京慈恵会医科大学 教授
	才藤栄一	藤田保健衛生大学 副学長
	芳賀信彦	東京大学 教授
理事長補佐	佐浦隆一	大阪医科大学 教授
	田島文博	和歌山県立医科大学 教授
理 事	浅見豊子	佐賀大学 教授
	出江紳一	東北大学 教授
	上月正博	東北大学 教授
	近藤和泉	国立長寿医療研究センター 副院長
	近藤国嗣	東京湾岸リハビリテーション病院 院長
	佐伯覚	産業医科大学 教授
	島田洋一	秋田大学 教授
	千田益生	岡山大学 教授
	帖佐悦男	宮崎大学 教授
	辻哲也	慶應義塾大学 准教授
	道免和久	兵庫医科大学 教授
	中村健	横浜市立大学 教授
	花山耕三	川崎医科大学 教授
	正門由久	東海大学 教授
監 事	菅本一臣	大阪大学 教授
	水間正澄	昭和大学　名誉教授
	和田郁雄	名古屋市立大学 教授
事務局幹事	藤原俊之	順天堂大学 教授

特任理事 （平成 29 年 4 月現在）



生駒一憲	北海道大学 教授
石川誠	回復期リハビリテーション病棟協会 常任理事
海老原覚	東邦大学 教授
角田亘	国際医療福祉大学 教授
影近謙治	金沢医科大学 教授
加藤真介	徳島大学 教授
川手信行	昭和大学 教授
木村浩彰	広島大学 教授
栗原正紀	日本リハビリテーション病院・施設協会 会長
桑平一郎	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 理事長
後藤葉一	日本心臓リハビリテーション学会 理事長
坂井一浩	日本義肢装具士協会 会長
園田茂	回復期リハビリテーション病棟協会 会長
高椋清	全国老人保健施設協会 顧問
田辺秀樹	日本臨床整形外科学会 理事長
椿原彰夫	川崎医療福祉大学 学長
中村春基	日本作業療法士協会 会長
半田一登	日本理学療法士協会 会長
深浦順一	日本言語聴覚士協会 会長
里宇明元	慶應義塾大学 教授

公益社団法人 日本リハビリテーション医学会

〒101-0047 東京都千代田区内神田1－18－12 内神田東誠ビル 2階

Tel. 03-5280-9700　Fax. 03-5280-9701　http://www.jarm.or.jp/

1704_30,000